

平成28(2016)年 4月 開設



佐賀大学大学院 学校教育学研究科(教職大学院)

入試説明会





1. 学校教育学研究科の概要説明(配布資料)

(1) 設置の趣旨・目的

(2) 養成する人材像

①カリキュラム

②授業実践探究コース

③子ども支援探究コース

④教育経営探究コース

2. 学生募集要項の説明

(1) 入学者受入れの方針(募集要項P2-3)

(2) 募集要項(募集要項P4-10)

(3) 入学手続等(募集要項P11-13)

(4) 学校教育学研究科の案内(募集要項P14-15)

3. 質疑応答



1 募集人員

変更: 2020年4月
入学者から

専攻	コース	募集人員
教育実践探究専攻	授業実践探究コース	20人 (うち10人程度を現職教員等入試で募集します。)
	子ども支援探究コース	
	教育経営探究コース	

生徒指導・教育相談系
特別支援教育系

※ 入学者の選抜は、コース単位ではなく、専攻で実施します。コースについては、入学手続時に提出されるコース調査票をもとに、入学試験の成績等を参考に決定します。必ずしも希望のコースになるとは限りません。

各コースの受け入れ人数は、授業実践探究コース10人程度、子ども支援探究コース5人程度、教育経営探究コース5人程度を目安とします。

なお、子ども支援探究コースは、教育心理学・生徒指導・教育相談を中心としたカリキュラム(生徒指導・教育相談系)と、特別支援教育に特化し特別支援学校教諭専修免許状の取得が可能なカリキュラム(特別支援教育系)に分かれます。



3 取得できる教員免許状

取得できる教員免許状は以下の通りです。ただし、専修免許状の所要資格を得ようとする場合は、取得しようとする専修免許状（中学校教諭及び高等学校の専修免許状については、その免許教科）の一種免許状を有することが必要です。

専攻	取得できる免許状	
	種類	教科
	幼稚園教諭専修免許状	
	小学校教諭専修免許状	国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 技術, 家庭, 英語
探究専攻	高等学校教諭専修免許状	国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 書道, 保健体育, 家庭, 情報, 農業, 工業, 商業, 英語
	養護教諭専修免許状	
	特別支援学校教諭専修免許状 <申請中> (注1) (注2)	知的障害者, 肢体不自由者, 病弱者 (視覚障害者, 聴覚障害者) (注3)

変更: 2020年4月
入学者から

- (注1) 特別支援学校教諭専修免許の教職課程については、文部科学省に課程認定申請中（2020年度から開設予定）です。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。
- (注2) 特別支援学校教諭専修免許状は、子ども支援探究コースの特別支援教育に特化したカリキュラム（特別支援教育系）でのみ取得可能です。
なお、特別支援教育系の学生が他の専修免許状を取得することは可能ですが、修得すべき単位数が修了に必要な単位数より多くなります。また、特別支援教育系以外の学生が特別支援学校教諭専修免許状を取得することはできません。
- (注3) 特別支援学校教諭専修免許状の取得にあたっては、「知的障害者、肢体不自由者、病弱者」の領域と「視覚障害者」及び「聴覚障害者」の領域の一種免許状を併せ持つ場合に限り、「視覚障害者」及び「聴覚障害者」の領域についての専修免許状を取得できます。



1. 学校教育学研究科の概要説明

(1) 設置の趣旨・目的

(2) 養成する人材像

①カリキュラム

②授業実践探究コース

③子ども支援探究コース

④教育経営探究コース



(1)設置の趣旨・目的

①求められる教員養成の高度化

これからの教員に求められる資質能力

これからの社会で求められる人材像を踏まえた教育の展開、学校現場の諸課題への対応を図るためには、社会からの尊敬・信頼を受ける教員、思考力・判断力・表現力等を育成する教員、困難な課題に同僚と協働し、地域と連携して対応する教員が必要である。

また、教職生活全体を通じて、**実践的指導力等を高めるとともに、社会の急速な進展の中で、知識・技能の絶えざる刷新が必要であることから、教員が探究心を持ち、学び続ける存在であることが不可欠である(「学び続ける教員像」の確立)**

中央教育審議会答申(2012年8月28日)

「教職生活の全体を通じた教育の資質能力の総合的な向上方策について」

これからの時代の教員に求められる資質能力

これまで教員として不易とされてきた資質能力に加え、自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていくことのできる力や、情報を適切に収集し、選択し、活用する能力や知識を有機的に結びつけ構造化する力などが必要である。

アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、道徳教育の充実、小学校における外国語教育の早期化、ICTの活用、発達障害を含む特別な支援を必要とする児童生徒等への対応などの新たな課題に対応できる力量を高めることが必要である。

「チーム学校」の考えの下、多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力の醸成が必要である。

中央教育審議会答申(2017年12月21日)184号

「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて」

「教職大学院」とは？

高度な力量を有する実践的な教員
(高度専門職業人としての教員)の養成



学校現場で活躍できる

プロフェッショナルな「教師」の育成



(2) 養成する人材像

①カリキュラム

学校改革の担い手となることができる高度な力量を有する実践的な教員
(高度専門職業人としての教員)の養成

- ・「課題探究」「理論と実践の往還」を原理とするカリキュラムの構造化
- ・教育委員会や地域との連携・協働を強化

学校改革探究力の向上に向けたカリキュラムの特色(全員必修)

- ・共通必修科目(10科目)における学び合い
- ・探究実習の実施

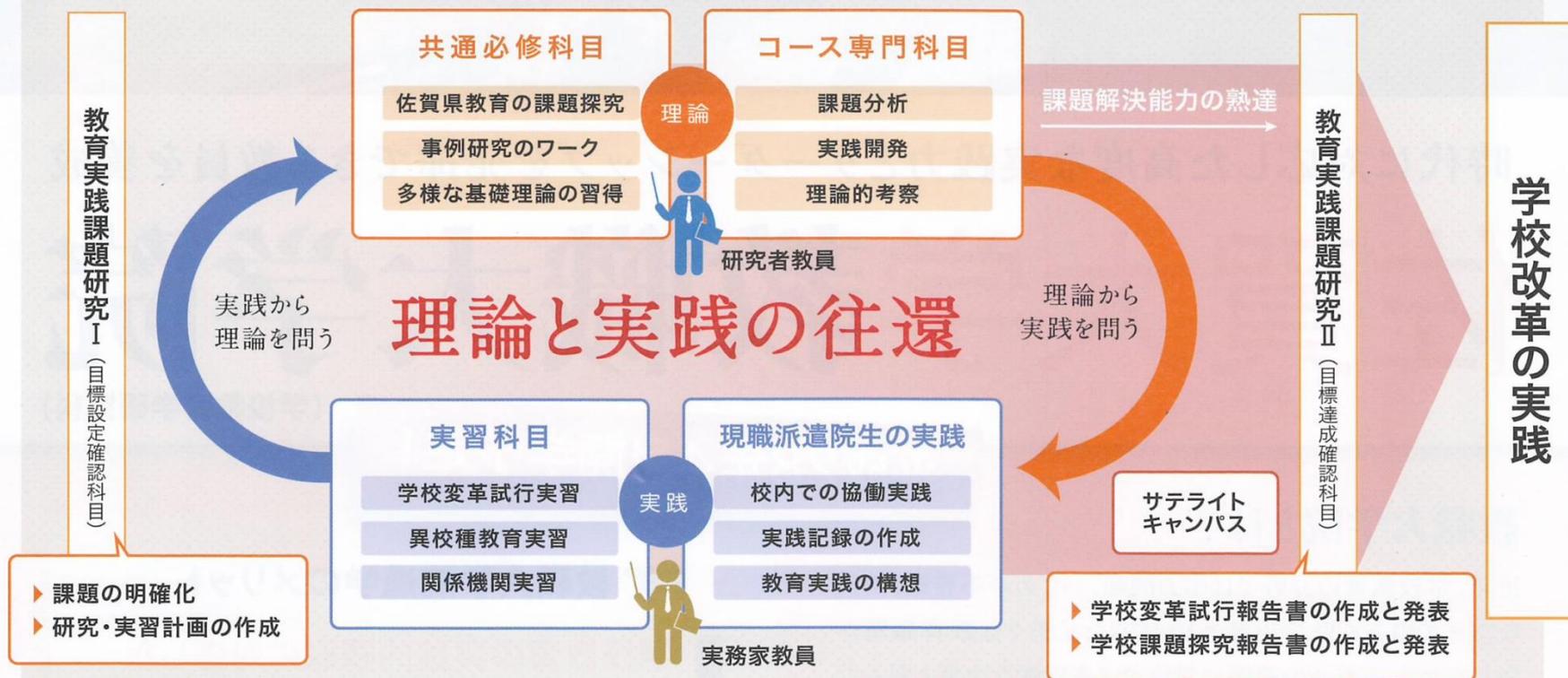


カリキュラム構造(現職教員の例)

1年次

2年次

各コースごとに研究者教員と実務家教員を配置。理論と実践の両視点から学び、課題解決能力を養います。





教育実践課題研究Ⅰ・Ⅱ

カリキュラムのスタート・ラインというべき「**教育実践課題研究Ⅰ(目標設定確認科目)**」は、目標の設定を確認する科目である。指導教員とともに、学力育成、あるいは不登校、学校運営等についての具体的な課題を明確化し、必要な資料を収集したり文献を購読したりする。それらの成果を生かして、目標が明確な実践研究と実習計画の作成を行う。作成されたそれらについて、教務委員会の承認を得て単位を認定する。

カリキュラムのゴールであり、2年間の学修をまとめる「**教育実践課題研究Ⅱ(目標達成確認科目)**」は、目標の達成を確認する科目である。教育実践課題研究Ⅰによって設定した、学校変革、あるいは学校課題探究に関する具体的な目標を基準に、2年間のカリキュラム履修を振り返って、**学校改革の試行に関する実践研究報告書(現職教員等院生)**、あるいは**学校課題に関する実践研究報告書(教員志望院生:ストレート・マスター)**のいずれかを作成・発表し、教務委員会により単位認定の審査を受ける。

こうしてまとめた実践研究の成果は附属学校研究発表会や佐賀県教育センターにおいて発表し、大学院修了予定者が、実践研究の成果を地域に公開する予定。



・ **共通必修科目(10科目)→研究者教員と実務家教員との共同授業**

必修・選択	領域	授業科目名	単位数
必修 (20)	教育課程編成・実施	教育課程編成の基礎と課題	2
	教科等の 実践的指導方法	現代的な学力観と授業実践の基礎と課題	2
		教科等におけるICT利活用の基礎と課題	2
	生徒指導・教育相談	子どもの学ぶ意欲の基礎と課題	2
		生徒指導・学校カウンセリングの基礎と課題	2
		特別支援教育の基礎と課題	2
	学校・学級経営	教育経営の基礎と課題	2
		授業づくりと学級経営の基礎と課題	2
		地域と連携する学校づくりの基礎と課題	2
	学校教育と 教員のあり方	教職キャリアデザインの基礎と課題	2



・探究実習(1・2年次通年:10単位)

ア	基盤教育実習 【選択必修・5単位】	受講者は ストレート・マスター とし、学校課題探究実習に先立って、教育実践の基本(学校における教師の仕事の基本的な通常業務)について实际的に学び、実践的な課題を発見することを目的に、授業実践等を試みる。
イ	学校課題探究実習 【選択必修・5単位】	受講者は ストレート・マスター とし、実習校の課題(教科指導・生徒指導・特別支援教育・学級経営・学校運営等)に応じて、調査や授業実践を試みるなどしてその分析や解釈を行う。学校課題解決のための実践力を養う。
ウ	異校種・関係機関実習 【選択必修・5単位】	受講者は 現職教員 とし、自身が所属する学校とは異なる隣接校種の学校園において授業実習を行い、学校間の連携について考察する。あるいは、学校以外の学校教育関係機関において実務実習を行い、学校と関係機関との連携のあり方について考察する。これらにより、ミドルリーダーとしての資質、連携力の育成を図る。
エ	学校変革試行実習 【選択必修・5単位】	受講者は 現職教員 とし、自身が在籍する学校の課題に即し、組織変革や新たなカリキュラムと実践の開発を組織的に試みることで、スクールリーダーとしての問題把握力・分析力・実践力・指導力の向上を図るとともに、学校改革に貢献する。



・探究実習(1・2年次通年:10単位)実施時期

	実習名・対象者	単位数	実習期間	場所
ア	基盤教育実習 【選択必修】 ストレート・マスター	5単位	1年次通年 【集中型・分散型】 (1日8時間×週1日×20回, 事前指導・事後指導・カンファレンス40時間, 合計200時間)	連携協力校
イ	学校課題探究実習 【選択必修】 ストレート・マスター	5単位	2年次通年 【集中型・分散型】 (1日8時間×週1日×20回, 事前指導・事後指導・カンファレンス40時間, 合計200時間)	連携協力校(基盤実習を行った実習校)
ウ	異校種/関係機関実習 【選択必修】 現職教員	5単位	1年次通年 【集中型・分散型】 (1日8時間×週5日×4週間, 事前指導・事後指導・カンファレンス40時間, 合計200時間)	附属学校園および連携関係機関
エ	学校変革試行実習 【選択必修】 現職教員	5単位	2次通年 【集中型・分散型】 (1日8時間×週1日×20回, 事前指導・事後指導・カンファレンス40時間, 合計200時間)	所属学校園



授業実践探究コース(専門科目)

必修・選択	領域	授業科目名	単位数
必修 (12)	授業と学習評価	授業実践の研究	2
		学力と学習評価の研究	2
		授業実践と学習評価の開発	2
		授業実践と学習評価の省察	2
	授業の指導法	授業実践指導法の研究	2
	授業の内容開発	授業実践内容開発の研究	2



生徒指導・教育相談系(従来コース)

子ども支援探究コース(専門科目)

必修・選択	領域	授業科目名	単位数
必修 (8)	子ども理解	心身の発達過程論	2
		心理アセスメント論	2
	子ども支援	子ども支援活動実践の開発・省察	2
		発達障害を持つ子どもの理解と支援	2
選択必修 (4)	特別支援教育	児童福祉と教育	2
	生徒指導	個が生きる集団づくりのための生徒指導	2
	教育相談	教育相談における支援体制と連携	2
	子ども理解	子どもの心理と教育支援	2
	子ども支援	子ども支援活動演習	2



教育経営探究コース(専門科目)

必修・選択	領域	授業科目名	単位数
必修 (8)	教育経営	地域教育経営課題探究の方法論	2
		学校経営課題探究の方法論	2
	学校経営	教育経営改善の開発・省察	2
		学級・学校危機管理論Ⅰ	2
選択必修 (4)	学校経営	学級・学校危機管理論Ⅱ	2
	教育組織・環境	学校内外連携・協働論	2
		学校内外連携・協働演習	2
		学校組織論	2



佐賀大学大学院

学校教育学研究科(教職大学院) 教育実践探究専攻 入試基本方針

佐賀大学大学院学校教育学研究科(教職大学院)教育実践探究専攻の入試は、高度な教員養成を主とした専門職大学院の入試であり、入学後のカリキュラムの中心科目である**共通必修科目10科目20単位を全員が履修するため**、その入試である学力検査等では入学後のカリキュラム履修に必要となる各領域の**総合的なレディネスを見取ること**を基本方針としている。